

# 無責任

## 三十八

定期券代にビビる俺

スケッチブック

浮島

タルタロスの向こう

清水らくは

四十分間じっと耐えて  
抜け出して苦しんで  
せつかく来たのにまた  
四十分間じっと耐えて  
私はシーシュポスを思う

この道を選んだときに  
覚悟すべきだった  
この日常では  
体だけでなく  
心も預ける

私の町からの改札を  
家族からの改札を  
理想からの改札を  
約束からの改札を  
簡単に通り抜けている

線路が気まぐれで  
行き先を捻じ曲げて  
知らない土地へ  
連れて行ってくれる  
そんな夢を見る

そんな夢の中でも  
四十分間  
閉じ込められたまま  
捻じ曲げられた先へ  
毎日連れられていく

私の意志からの改札を  
孤高からの改札を  
尊厳からの改札を  
神話からの改札を  
うつむきながら通り抜けている

改札の向こうは  
白い雨につつまれていた

山あいにある駅だからか

霧雨のなかに山椒やら

羊歯やら

朽ちた櫓の木の匂いがあつた

一昨年に亡くなったサキちゃんや  
ひとりっ子の家の鍵

プラスチックのロボットの匂いも  
あつたかもしれない

けむる線路のむこうから

トンネルを縫って

電車のライトがぼうつと光った

緑色のちいさな電車がきたのだ

けれど僕はもう

その電車には乗ることができない

無責任の配布先 「詩的境界線群」 <http://borderspoem.seesaa.net>

無責任38号

責任者 清水らくは (スゴカのひとつ)

副責任者 浮島 (パスモのひとつ)

発行日 2015年4月1日

発行元 無責任.zone